オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(34)(HP 収載)
―ドイツ・グラモフォン 120 周年ガラ・コンサート―

１．始めに

前報(33)に引き続き、STAGE+のドイツ・グラモフォン 120 周年ガラ・コンサートの演奏の試聴を実施します。

２．試聴音源

今回は、ドイツ・グラモフォン 120 周年ガラ・コンサートの演奏を選びました。

ドイツ・グラモフォン 120 周年ガラ・コンサート：ラン・ランを迎えて

シュターツカペレ・ベルリン

収録日: 2018 年 11 月 6 日

2018 年にドイツ・グラモフォンは創立 120 周年を迎え、世界中でガラ・コンサートを開催しました。本映像はその中の一つで、2013 年 2 月のデビュー以来、ベルリンフィルに繰り返し客演するなど世界的指揮者であるマンフレート・ホーネックがシュターツカペレ・ベルリンを率いています。プログラムはベートーヴェンの《フィデリオ》序曲に《レオノーレ》序曲、さらにスター・ピアニストのラン・ランを迎え、モーツァルトのピアノ協奏曲第 24 番です。「最もドイツ的な楽団」とされるオーケストラが奏でる音色を味わうのに最良の楽曲といえましょう。

ソリスト:

ラン・ラン（ピアノ）

アンサンブル:

シュターツカペレ・ベルリン

指揮:

マンフレッド・ホーネック

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン　《フィデリオ》序曲 op. 72

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト　ピアノ協奏曲第 24 番ハ短調 K. 491
　　ラン・ラン(ピアノ)

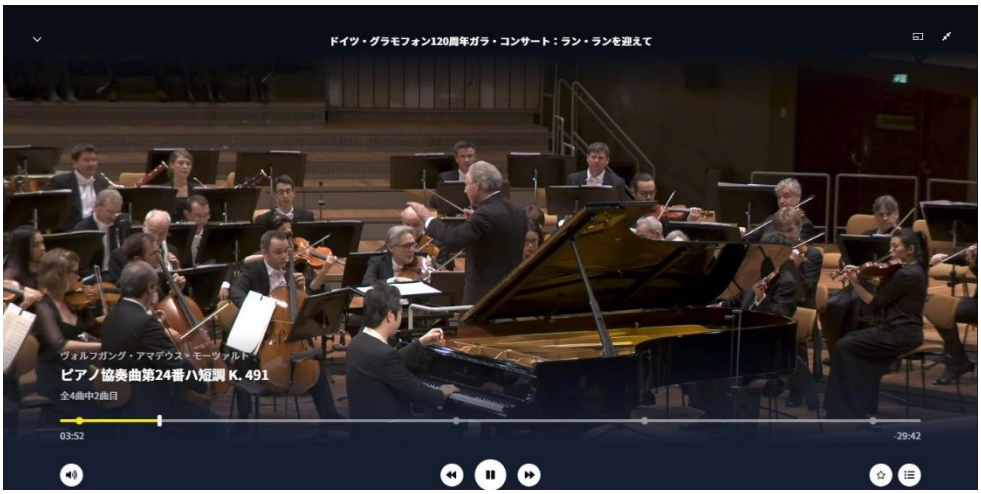
フレデリック・ショパン　ワルツ第 1 番変ホ長調 op. 18《華麗なる大円舞曲》
　　ラン・ラン(ピアノ)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン　《レオノーレ》序曲第 3 番 op. 72b

３．試聴の経過

2018 年のドイツ・グラモフォン 120 周年ガラ・コンサートということで、ラン・ランとマンフレッド・ホーネック指揮のシュターツカペレ・ベルリンの演奏です。映像を見て分かったことですが、ホールはベルリンのシュターツカペレではなく、ベルリンフィルの大ホールを使用しています。

シュターツカペレ・ベルリンの編成は、いつものベルリンフィルの編成より小さく、従って、音の厚みや迫力はベルリンフィルには及びません。ラン・ランのピアノは美しく耽美的な世界を広げてくれます。ホーネックの指揮は手堅くまとめる方で、シュターツカペレ・ベルリンの演奏もオペラの演奏が本職であるだけに、ベートーヴェンのオペラの序曲らしい堅実なまとまりを見せています。



４．まとめ

以上の STAGE+配信は、2018 年の収録の演奏で、収録環境もよく、音質的にも満足できるレベルでした。収録のホールはベルリンフィル大ホールでしたが、シュターツカペレ・ベルリンの演奏はいつものベルリンフィルとの音の違いもわかり、これまで

の仮想アース、MRF-005T に加えてスピーカーアキュライザーの効果も確認できました。

以上